

クリーン四国

No.1266
2025年
9月号

署・所でつながる学びの輪

～四万十森林管理署、香川森林管理事務所合同勉強会～

【詳細は2頁】

四国カルストは、愛媛県と高知県の県境に広がる標高約1,400mの高原地帯で、日本三大カルストのひとつに数えられる。

石灰岩が雨水などによって長い年月をかけて浸食されて形成されたカルスト地形が特徴で、白い岩が点在する独特の風景が広がる。

目次

・ 署・所でつながる学びの輪 ～四万十森林管理署・香川森林管理事務所合同勉強会～	2
・ 「社会貢献の森」～四万十川源流ふれあいの森～協定を締結しました。	3
・ 令和7年度放課後子ども教室推進事業「香美市こども教室」	4
・ 親子で木工教室	5
・ 「夏休み森林・木工教室」を開催	6
・ 森の守り神「朝日出山の大杉」	8
・ 現場からの便り「愛媛県最南端での国有林管理」	9
・ 四国森林管理局・署(所)お問い合わせ先	10



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

T E L 088-821-2052
H P <https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

署・所でつながる学びの輪

〳四万十森林管理署・香川森林管理事務所合同勉強会〳

（四万十森林管理署）

（香川森林管理事務所）

8月4日から5日にかけて、香川森林管理事務所7名、四万十森林管理署32名、資源活用課4名が参加して、森林作業道作設現場の見学及び森林3Dレザースキャナー（OWL）操作の合同勉強会を四万十森林管理署において実施しました。

1日目は、保育間伐【活用型】の事業箇所にて、請負事業体である植村木材有限公司様の御協力の下で森林作業道を作設する一連の流れを見学しました。

作設作業は、切土側は材の引き出しが容易となるように切土高を極力低くするよう工夫されていたほか、盛土側はのり面に表土や根株を挟んで締固めることによって早期の植生回復を図る表土ブロック積工法が丁寧に行われていました。特に、根株の利用については盛土表面から転落しにくいよう支持根の長い方を路体に埋設していたほか、根株同士の位置は不均等に配置する等の工夫がなされており、それを適切に行うには熟練された技術が必要なのだと言われました。

また、作業道の線形は可能な限り乗用車及び作業車が走行できるような幅員と勾配で設計しているとの話を伺いました。これにより、新たに伐開を行う際や、伐採や造林作業で作業者が容易に林内にアクセスできるほか、万が一の災害発生時でも救助が迅速に行えるのだと学びました。利便性だけでなく安全性も追求し、常により良い方法を探し続けているのだと分かりました。

作業見学後の質疑応答においては、「それぞれの現場によって、適切に作業道を作設できる方法や場所異なる。図面だけを見て計画を立てるのではなく、しっかりと現場を見て判断してほしい。また、ぜひ様々な現場を見てその違いを体感してほしい。」との話を伺うことができ、業務に対し誠実に臨む姿勢を感じました。

今回の合同勉強会は、職員によつては他地域で普段あまり接点のない事業体の施業方法に触れることができた貴重な機会となりました。

2日目は、四万十森林管理署の田村係員が講師となりOWLを使うことで標準地測量などの作業が不要となることや、それに係る人員等が縮減できるメリットがあること、デメリットとしては林地が急峻な箇所や高木性の灌木などが繁茂している箇所では使用が困難ということが説明されました。

また、試験的に標準地を設定する際には、樹種判別まではできないことからスギ・ヒノキが混在する箇所を設定しないこと、隣接する別小班内の立木も測定してしまうため小班境付近では設定しないことなどが説明されました。



作業道作設の様子



現地での質疑応答

プロットの中では10m間隔で一筆書きのように移動すること、細長い標準地では、ジグザグに移動した方向からスキャンとなるよう移動することなど、意見交換を行いつつ設定を行いました。

参加者のほとんどが一度はOWLを使用したことがある職員でしたが、「操作が簡単」、「機械が想像以上に重く、高さもある」、「ボタン一つで測量ができるのは効率的」等の意見や「最小限の人員で行え、据え付け等がとても簡単」等基本的な質問から、応用を交えた質問など様々な意見があり、非常に有意義な勉強会になったと考えています。



最後に名本香川森林管理事務所長からは、「本日集まった皆さんから意見のあったとおり、3Dレーザースキャナー（OwL）を使用するにはメリット、デメリットがあることから現地に出した、より効率的な調査方法の選択肢として活用していただけたらいい」との挨拶がありました。

これからも引き続き、OwLをはじめとする各種機器の使用などの情報交換や事業実行における各種勉強会を実施すること、現場業務や事務手続きの効率化を図れるよう取り組んでまいります。

「社会貢献の森」 「四万十川源流ふれあいの森」協定を 締結しました。

（四万十森林管理署）

8月29日、四万十森林管理署において、四国国有林森林整備協議会（高素協）中山登会長と四万十森林管理署長の間で「社会貢献の森における森林整備活動等に関する協定」を締結しました。

今回の協定は、国民参加の森づくり活動の一環として、四国国有林森林整備協議会より申し出のあったもので、企業の社会的責任（CSR）をはたすための活動等を目的とした森林整備を行うこととしています。

本協定の場所は高知県津野町の船戸山国有林3251林班り小班で四国西南地域を流れる延長196kmの四万十川源流の碑からの源流点までの遊歩道が所在していることから、名称を「四万十川源流ふれあいの森」として、年間2回程度の森林整備や遊歩道等の整備を行い、景観の保全及び入山者の安心・安全な環境の整備を実施する内容となっています。また、源流地点まで最寄りの林道から25分程度で行けることから年間を通じて多くの入山者が訪れており、



調印の様子

その区域をレクリエーションの森として設定し、森林の持つ多面的機能を発揮しつつ林内散策などを楽しんでいただける森づくりを行っていくこととしています。

当署管内には同様の国民参加の森づくり活動を行っている森林が4カ所あることから、それぞれの活動に対する積極的な協力・支援を行うとともに、今後にもフィールドの提供や技術支援に取り組んでいきたいと考えています。



調印を終えて



令和7年度放課後子ども教室推進事業

「香美市子ども教室」

〈高知中部森林管理署〉

8月19日、奥物部ふれあい物産館にて、香美市中央公民館が主催する「巨樹巨木」油絵と「奥物部深山」写真展示会のコラボ企画として開催された、「香美市子ども教室」に当署の森下森林技術指導官が講師として参加しました。

今回の子ども教室は、前半の部・後半の部と分け開催され、多くの子ともたちと保護者の方々が参加しました。また、森林に興味を持った一般の方々も4〜5名ほど参加されました。

初めに、「香美市の山々たんね歩記」といった国有林の仕事や香美市の山々についての講演を行いました。ツキノワグマやニホンカモシカ、さらには大きなヒキガエルからヤマネまで初めて見る動物に子どもたちも興味津々のものでした。また、山や動物の様々な言い伝え、獣害の話には保護者の方々もついつい話に惹き込まれてしまうほどでした。講演後、ニホンカモシカに心惹かれた参加者の方は、「ぜひ会いたい」とニホンカモ

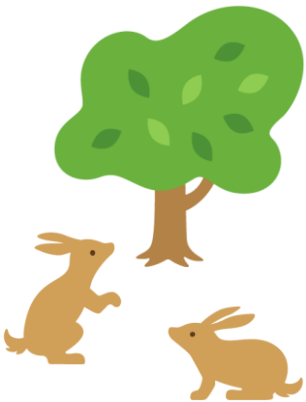
シカの生態や遭遇した場所等について質問し、その答えを熱心に聞いていました。

会場に展示されていた森下森林技術指導官が製作した巨樹の油絵や写真愛好家の方が撮影した物部の山の写真を「すごいね」、「きれいだね」と親子で楽しむ様子が見られました。



また会場には、高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部の方々が参加されており、香美市の山で獲れた鹿を使ったジビエ料理の販売やジビエのペットフードを販売していました。講演後は長い列ができ、ジビエに興味を持った保護者の方々が購入されていました。

今回の講演では、山に興味を持ってもらうことと同時に自然を楽しむことを伝えられたのではないかと思います。今後子どもたちが山に興味を持つきっかけになれるような取り組みを行ってまいります。



親子で木工教室

〈技術普及課〉
〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

〇概要

8月30日、高知市の「文化プラザ かるぽーと」で開催された「こうち環境博2025」に当センターも参加しました。

このイベントの参加にあたっては、「こうち環境博実行委員会」から、当センターが作成指導している天然素材も使った木工小物作りが子供たちに喜んでもらえそうだという事で、昨年に続いてお声がけいただき、今年は来場者の増加も予想されたことから技術普及課職員3名の応援も得て「かんたん木工教室」のブースを出展しました。

〇かんたん木工教室

当センターのブースでは、「森林からのおくりもの」をテーマとし、センター職員が国有林で調達したヤマザクラの枝や幹や枝の輪切りなどのパーツをセットにした製作キットで作るカブトムシ・クワガタムシの壁掛けや置物づくりと、ポスターカラーで自由に色塗りし、接着剤で組み立てるスマホスタンドづくりを行ってもらいました。

スマホスタンドは四万十市の「しまッチ」、愛媛県の「みきやん」のそれぞれキャラクター2種

類の下絵を描いた板と、その板を斜めに支える角材、スマートフォンを乗せる底板にはキリを使った3種類のパーツを1セットとして併せて約200セット準備しました。

全体の時間配分も考慮し先着30名としていたためか、開始早々に親子が訪れはじめると、限られたスペース内に配置した24席全てがあつという間に埋まり、40分前後で完成させたら参加者を入れ替えるかたちで対応しながら、最終的には4時間で100名程度の来場があり、木の実や小枝、小石や貝殻など、山から海のものまで自由に選べる装飾材料も準備していたので、皆さんそれぞれ趣向を凝らしながら、「これかわいい!」、「もう少しこつちにくつつけようか」、「ここにドングリを置くといいかも?」など、親子で楽しそうに取り組んでいる様子がみられました。

また、ブース内で森林環境教育用に制作した紙芝居（自動再生版4種類）を常時流しており、後半はセンサーカメラで記録された鹿の動画集を流したところ、当センターの正面に位置する高知商業ジビエ部の皆さんも興味深そうに見入っていました。

〇その他イベント

会場内では、メインステージにおいて小学生によるダンスパフォーマンスが披露されるイベン

トもあつて多くの親子連れで賑わっており、その他のコーナーでも、環境についてのクイズを解きながらゴールを目指す段ボール迷路では入場待ちの長蛇の列ができており、段ボールで組み立てた大きな恐竜の遊具や、木のおもちやコーナーでも小さな子どもたちが無邪気に遊んでいました。また、他の出展ブースでも環境問題や、多様な生物に関わるものなどのワークショップや展示物があり、当センターの隣のブースでは、高知県林業大学校によるVRゴーグルを装着し、チェンソー型コントローラーを操作しながら伐倒作業を体験できるコーナーがあり、子どもや大人も大学スタッフに補助してもらいつつスムーズに伐倒が成功すると拍手や歓声があがっていました。



出展ブースの様子



しまッチ（左）、みきやん（右）



伐木VR体験コーナー



段ボールゆうえんちコーナー

〇おわりに
参加者からは、「親子で作できたのが楽しかった」、「カブトムシ大好き、家で飼育している」、「昆虫が木で作れて嬉しかった」、「しまッチのかわいい作品が出来て嬉しい」などの感想をいただき、全体で約1,300人の方々が来場したこのイベントを通じ、森林への理解や木育への取り組みを効果的に伝えられた一日となりました。

「夏休み森林・木工教室」を開催

（四万十川森林ふれあい推進センター）

○概要

夏休み期間中、「NPO法人スマイルはたっこ」学童保育事務局（四万十市児童館事業委託業者）より要請を受けて、四万十市内小学校8校の放課後児童クラブや子ども教室において、合計11回、合わせて372名を対象に「夏休み・木工教室」を開催しました。

○実施内容（別表参照）

その内6校の森林教室では、「雨水のぼうけん」という教材を使って、森林の保水力や水の浄化作用について勉強し、次に「もくざいのヒミツ」という教材で、木材の柔らかさや香りなどの木材の秘密について楽しみながら学んでもらいました。

残り2校の森林教室では、嶺北森林管理署の若手職員が発案・作成した「高知の自然！大発見すごろく」により森林環境教育の普及啓発を兼ねて実施しました。

お楽しみの木工教室では、当センター職員が、完成するとスマホやタブレットも乗せられるように、軽い木、重たい木などの絶妙なバランスを計算して板や角材を加工したパーツを使用した「便利なスマホスタンド」を作成してもらいました。

使っているパーツは3種類で、下絵は、四万十市のゆるキャラ「アチウナギのしまッチ」にしました。

なお、「しまッチ」を描いた板はスギ、角材はヒノキ、スマホを乗せる板はキリを使っています。

はじめに「しまッチ」の下絵のあるスギ板をポスターカラー等で自由に色ぬりをして、それが出来たら、自由な発想で貝殻、小石、小枝、木片、木の実等の自然素材やビーズ、コルク等をちりばめて装飾し、次にキリの板に接着し、最後は、三角形の角材を接着して、各々「便利なスマホスタンド」を完成させました。



紙芝居上映、絵本を見る児童



高知の自然！大発見すごろくを楽しむ様子

接着剤が乾く合間に、「おまけ」として、当センターが準備したキリ板製の生き物等のパーツ、スギやヒノキの端材、ヤマザクラ等の小枝等を使ったキーホルダーやストラップ作り、そのほか置物などの小物作りも自由に楽しんでもらいました。

○おわりに

放課後児童クラブや子ども教室の代表児童から「メッチャ楽しかった、ありがとうございました。」とお礼の挨拶がありました。また、学童保育事務局からも、「どこの教室、クラブも皆楽しんでいました。すごく良かったです。」との感想や、「子どもたちも、お迎えが来ると荷物を持たずに真っ先に作品を見せに走っていました。いい経験、思い出になったと思います。」とお礼のメールがありました。

今回の森林環境教育を通して、子ども達には、森林の大切さを知ってもらい、板や角材の香り、模様、手ざわりの良さなどを通じて木に親しんでもらえたと思います。

また、四万十市の子育て支援の一端にも貢献できたと考えています。

なお、今回の森林・木工教室では、道具の搬入・搬出と準備や片付け、児童の対応など、四万十森林管理署の職員の協力を得て実施しました。若手職員にとっても、OJTを兼ねるかたちで良い経験になったものと考えます。



スマホスタンド作り

学校名等	児童クラブ・子ども教室名	実施日	実施時間	対象児童数	森林教室（30分程度）	木工教室（90分程度）
中村南小学校	つばめ学級	7月24日	13:00～15:00	82名	雨水のぼうけん、もくざいのヒミツ（紙芝居自動再生版）の上映	夏休み工作、「しまッチ、スマホスタンド作り」
		7月25日	13:00～15:00			
具同小学校	とんぼ学級	8月19日	13:00～15:00	105名	〃	〃
		8月21日	13:00～15:00			
東山小学校	なかよし学級	7月31日	13:00～15:00	94名	〃	〃
		8月22日	13:00～15:00			
下田小学校	はまっこ子ども教室	8月8日	9:30～11:30	24名	〃	〃
藤岡小学校	ひまわり子ども教室	8月4日	9:30～11:30	23名	「高知の自然！ 大発見すごろく」	〃
大用小学校	やまっこ子ども教室	8月5日	10:00～12:00	14名	〃	〃
利岡小学校	わかたけ子ども教室	8月6日	9:30～11:30	10名	雨水のぼうけん、もくざいのヒミツ（紙芝居自動再生版）の上映	〃
八束小学校	アカメ子ども教室	8月7日	9:30～11:30	20名	〃	〃
計	8校	11回	各120分	372名		おまけ付きかも？（´ω´）・・・♪たまるか～



夏休み工作「しまッチ、スマホスタンド作り」みほん



夏休み工作「しまッチ、スマホスタンド作り」みほん



森の守り神 「朝日出山の杉」

〈安芸森林管理署〉

安芸郡馬路村は、高知県東部の中山間地域に位置し、総面積の約96%が森林に覆われています。

村は「馬路地区」と「魚梁瀬地区」に分かれ、かつては林業を中心に栄え、森林鉄道が走っていた時代の面影を今も残しています。現在も、村の森林のうち約75%を占める国有林については、当署が管理しています。

近年では、柚子の栽培と加工品づくりが地域の主要産業として発展しており、村で生まれた柚子飲料や調味料は全国的にも高い評価を受けるなど、自然の恵みを活かした製品は、馬路村のブランド力を高め、持続可能な地域経済の柱となっています。馬路森林事務所管内の朝日出山の杉は、推定樹齢800年、高さ約34m、幹回り約10mを誇る堂々たる巨木です。この大杉は、馬路村では、村の天然記念物として大切に守られており、日本遺産「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」の構成文化財にも選ばれています。

この大杉の根元には小さな祠が祀ってあります。この祠には次のような謂れがあります。

天正二年、長宗我部元親は、高知県東部に大軍を進めます。元親の命により馬路に軍勢を差し向けた安田城主・安田三河守鑑信は、馬路軍の奮闘により敗戦となります。この知らせに安田三河守は、杉千代を馬路城主・馬路蔵人頭平長正の下へ質女として送り和睦したのち、杉千代に暗殺させます。この機に乗じて安田三河守は、さらに新軍の軍勢を差し向けました。馬路軍方は大勢にかなわず、城を捨て朝日出山へ逃げます。そこで蔵人頭の息子である馬路若狭頭隆正と乳母が討ち死にしたのが、この大杉の下であり、この祠は隆正を祀ったものです。



大正～昭和初期の林業関係写真から



文化財申請時（1986年）

また、若狭頭の長男の若杉丸は、北川村の西谷まで逃げ、そこで殺されます。北川村宗ノ上には、今でも「馬路様」とよばれる祠が地元の人に大切に祀られています。

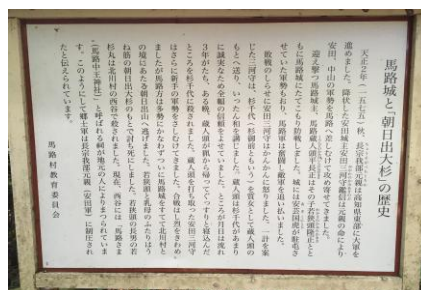
この朝日出山大杉の下では、時代を超え、村や人々の安寧のため、毎年祈願祭が執り行われています。

今年は、8月27日に、馬路村長、北川村長、北川村宗ノ上地区代表ほかが参列し、厳かに神事が執り行われました。

朝日出山大杉に感謝と祈りを捧げるこの神事は、村民が集い、自然の恵みと日々の暮らしへの感謝を込めて手を合わせる伝統行事です。静寂な森の中に響く祝詞の音が、この地の深い信仰と歴史を物語っていました。

登山口までは村中心部から車で約30分、西谷朝日出林道を通ってアクセス可能です。登山口から大杉までは徒歩約20分ですが、道が分かりづらいため、事前にルートを確認しておくことが安心です。

朝日出山大杉に宿る祈りと歴史の気配が、静かに心に響いてくることでしょう。



現場からの便り

愛媛県最南端での国有林管理

愛媛森林管理署 南宇和森林事務所

森林官 岡上優斗



愛媛森林管理署南宇和森林事務所の森林官として、4月に着任してからはや5か月が経ちました。

当事務所は、県最南端の南宇和郡愛南町に所在し、高知県宿毛市との県境に跨がる日本一名称が長いことで有名な小学校（残念ながら令和8年度末閉校）の道路向かい側に位置しています。

南国情緒あふれる愛南町は、山・川・海など豊かな自然に囲まれ、温暖で風光明媚な地域であり、レジャーやマリンスポーツが充実しているため、夏休みシーズンには県外ナンバーの車両も多く賑わっています。

管内には、足摺宇和海国立公園の景勝地に指定されている標高1,064.6mの篠山（レクリエーションの森）があり、4月下旬から5月上旬にかけてツクシアケボノツ

ツジ（篠山が四国唯一の生育地）やホンシヤクナゲが開花し、毎年多くの登山客がこの季節に足を運んでいます。また、登山道には根回り9mの「大杉」や、14種類もの植物が着生した根回り5.5mの「十色のコウヤマキ」などの巨樹が自生するなど、魅力あふれる名山として有名です。当事務所は、先に述べた篠山をはじめ、愛南町の国有林約2,700haを管理しており、そのうち人工林の多くは利用可能な伐期を迎えていることから、立木販売及び多様で健全な森林を造るための森林整備事業を行っています。

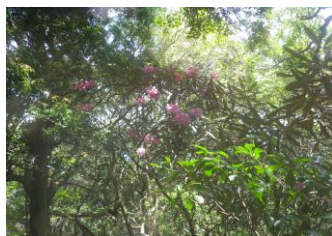
また、管内では、二ホンジカの生息域拡大や個体数増加により、幼齢木の食害や樹皮剥ぎ被害が深刻な状況となっています。そこで、定期的に国有林内で作業等を行う事業体と「ついでの捕獲」協定を締結するなど、獣害対策にも積極的に取り組んでいます。

業務内容としては、各種林況調査や森林整備事業の監督、境界及び林道の保全管理など、私と再任用職員の2名体制で担っています。

今年の夏は全国的に猛暑日が



ツクシアケボノツツジ



ホンシヤクナゲ



生産事業監督（採材研修）



「大杉」を見上げて

続き、連日のように熱中症警戒アラートが発令される中、空調服などの熱中症対策をして現場に向かっています。ときにより地的豪雨に見舞われて、予定していた現場作業を中止することもあるため、南国特有の天候不順に悪戦苦闘しながら日々の業務にあたっています。

今後は、林業普及指導員の資格取得で学んだことを活かして、国有林が地域にどのような貢献できるかを考えながら、地域に根ざした森林官としての役割を果たしていきたいと考えています。

四国森林管理局・署（所）

お問い合わせ先



四国森林管理局・署（所）問い合わせ先

名称	住所	TEL
四国森林管理局	高知県高知市丸ノ内1-3-30	088-821-2210
徳島森林管理署	徳島県徳島市川内町鶴島239-1	088-637-1230
愛媛森林管理署	愛媛県松山市朝美2-6-32	089-924-0550
四万十森林管理署	高知県四万十市中村丸の内1707-34	0880-34-3155
嶺北森林管理署	高知県長岡郡本山町本山850	0887-76-2110
高知中部森林管理署	高知県香美市物部町大栃1539	0887-58-3131
安芸森林管理署	高知県安芸市川北乙1773-6	0887-34-3145
香川森林管理事務所	香川県高松市上之町2-8-26	087-866-6622

入林される皆様への注意事項

- 国有林に入林する際には、以下の事項について注意してください。
- ① 草木やキノコなどの採取、樹木の伐採や損傷をしないでください。
 - ② 自然保護などのために立入が制限されている箇所へは入らないでください。
 - ③ ゴミは持ち帰りましょう。
 - ④ 枯木や枯れ枝は危険ですので、近寄らないでください。
 - ⑤ タバコなど火の取扱いには十分注意してください。
 - ⑥ 林道は未舗装箇所が多数あります。通行の際はご注意ください

登山は自己責任です。天候や登山情報を確認し、十分な装備で入山してください。また、ご家族へ行き先を告げるとともに、登山目的地を管轄する警察署等へ登山計画書を提出してください。